過疎地域の自立促進をめざした高齢者の地域づくりのための生涯学習システム

－「地域白書」を用いた地域調査を中心として－

久保田　治　助*

（2016年10月25日　受理）

A Lifelong Study System for Older Adult's Living in a Depopulated Area Aimed at Regional Promotion

: Focusing on an Area Investigation Using "Area White Paper"

KUBOTA Harusuke

要約

本研究は，従来行われてきた高齢者学習支援論に対して，これまで注目されてこなかった緊急課題である過疎地域の自立促進をめざした地域づくりというテーマに即して，高齢者の学習組織支援の内実をより明確にさせてゆくということに主眼が置き，過疎地域における自治公民館を中心とした地域づくりについて，過疎地域に住む高齢者たちが主体的に地域活性化事業を行うために必要となる公民館を中心とした学習環境の整備と，地方行政や他地域とのネットワークを形成するための生涯学習による高齢者学習支援プログラムの開発を行うことを目的としている。

とくに，行政やＮＰＯと連携を取る際に，住民全体の意見をすみやかに把握することができるシステムとして「地域白書」という地域高齢者が地域課題に取り組む生涯学習モデルを用い，公民館主事を中心として各地域で作成したものから，地域課題にどのように取り組んでゆくのかについて検討したものである。

キーワード：生涯学習，高齢者，公民館，地域白書，地域づくり

＊　鹿児島大学教育学部　准教授

1. はじめに

本研究では，過疎地域における自治公民館を中心とした地域づくりについて，過疎地域に住む高齢者たちが主体的に地域活性化事業を行うために必要となる公民館を中心とした学習環境の整備と，地方行政や他地域とのネットワークを形成するための生涯学習による高齢者学習支援プログラムの開発を行うことを目的としている。

とくに，行政やＮＰＯと連携を取る際に，住民全体の意見をすみやかに把握することができるシステムとして「地域白書」という地域高齢者が地域課題に取り組む生涯学習モデルを用い，公民館主事を中心として各地域で作成したものから，地域課題にどのように取り組んでゆくのかについて検討する。

超高齢社会を迎えた日本は，1960年代後半からスタートした高齢者の生涯学習施策が全国的に広く行われ，今日では多くの人々に認知されるようになった。平成24年3月には，文部科学省の「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」において，生涯現役をめざした高齢者の社会参加が積極的に謳われている。今後高齢者が社会に新たに参画するための具体的な学習，実践について見出してゆくことは，「平成25年度高齢社会白書」でも言われている高齢者を含めた市民やＮＰＯ等が主体となって公的サービスを提供する「新しい公共」の構築が求められている。

これまで社会教育学の学問領域の枠組みのなかで高齢者教育について明らかにされてきた点は，「日本における高齢者の学習内容は，地域課題の解決に重点がおかれている」ということであった。しかし教育老年学のなかでロバート・アチェリーが継続理論として，「高齢者が，自身の過去の経験やこれまでの社会関係を活かすような適応的選択を行ない，社会もまたそれによって安定するということを前提としている」（Atchley・1989）と述べているが，行政施策の視点をふまえた学習支援のあり方は，高齢者の生涯学習において深められているとはいえない。さらに現状として，平成24年8月に総務省を中心に「過疎地域自立促進特別措置法」が制定されたが，高齢者の地域づくりを目的とした学習組織は，都市部の高齢者が中心であり，地方のなかでも特に過疎地域に住む高齢者に対する具体的な学習環境は整備されていない。

本研究は，従来行われてきた高齢者学習支援論に対して，これまで注目されてこなかった緊急課題である過疎地域の自立促進をめざした地域づくりというテーマに即して，高齢者の学習組織支援の内実をより明確にさせてゆくということに主眼が置かれている。これまで高齢者の生涯学習政策は都市部の高齢者がターゲットであった。しかし，地方行政の経済的支援計画は厳しい状況にあり，過疎地域の高齢者にとって地域振興について考え・学びあう学習環境の整備が必要とされている。この状況に対して地域白書制作は，新たな全国の過疎地域の高齢者学習支援の可能性と課題をより明確にすることをねらいとしている。

2. 地域白書とは

上記の点を踏まえ，本研究では過疎地域における地域づくりをめざした高齢者の生涯学習支援のあり方を総合的に把握するために，2つの視点で明らかにしている。＜1＞過疎地域における地域づくりを行っている高齢者の学習組織に注目し，①それぞれの学習組織が行っているワークショップやイベントなどの目的や方法の分析および②学習プログラムの類型化を図る。＜2＞参加型農村調査として「地域白書」作成という生涯学習プログラムを用いて，①地域社会の高齢者の協働意識の確立と，②内在化された地域課題を浮き彫りにすることで，学習支援を促進させる。

ここでの「地域白書」とは，これまで行ってきた高齢者の学習支援の促進を目的とした高齢者が中心となって作成する調査報告書である。「地域白書」は，公民館主事が中心となって，高齢者が地域課題について話し合いを行い，アンケートを作り，調査分析した結果を報告書として行政や地域住民に向けて作成したものである。地域白書を作成するための手順は，以下の通りである。

1. 過疎地域の特徴的な高齢者の地域づくりに関する学習組織支援者のヒヤリング調査
2. 地域高齢者へのアンケート調査による，学習を行ったことによる変化の分析
3. 過疎地域への参加型農村調査として「地域白書」の作成による学習効果の分析

この「地域白書」は，2012年度から開始し，鹿児島県いちき串木野市『川北地域白書』として，社会教育行政と公民館主事と地域高齢者との連携によって，地域住民の意識をヒヤリングやアンケート調査をもとに分析し発表した。さらに，2014年度では，鹿児島県日置市『しんこだんご等地域資源活用による地域活性化事業』においても，先述のいちき串木野市川北地域と同様に公民館主事と連携して，扇尾地区と坊野地区において「地域白書」の作成作業を行っている。2015年には，山形県金山町において『中田地域白書』，鹿児島県日置市野首地区において『野首地域白書』を作成した。

これらのアンケートは一貫して，地域住民が課題と思っている内容をリサーチした上で，その課題点のなかで上位となる項目を抽出する方式を取っていることである。そのために，地域課題を表出するための学習活動を自治公民館で行なった。

この4地域の特徴について述べるとすると，川北地域は，人口1,708人（平成28年9月現在）で山間にある地域である。高速道路や電車など交通機関も充実しているが，市庁舎や商店街から離れていることもあり，高齢者の移動手段が限定されている地域である。坊野地区と扇尾地区は，日置市の中心地からは遠いが，山間の山村で2地域は隣接している。しかし，坊野地区が旧吹上町，扇尾地区が旧日吉町であり行政区分が異なっていたことから，自治体間の連携がこれまであまり深くなされて来なかった。扇尾地区のある日吉の人口は4,998名（平成28年9月現在）であるが，そのほとんどが市街地にいるため，扇尾地区の過疎高齢化は進んでいる。また，扇尾地

区は，吹上の中心地へつながる県道が通っていることから，車の往来は多いが，商店なく，2015年度で地域にある扇尾小学校は閉校し，扇尾保育園のみ継続している。扇尾地区は「しんこだんご」の発祥の地として有名である。近隣地域である坊野は，扇尾地区を縦断する県道からさらに奥に入ったところであり，遺跡があり観光としても有名なところであるが，交通手段が乏しく，福祉タクシーの利用が多い。吹上の人口は8,101名（平成28年9月現在）であるが，市街地に人口が集中し，扇尾地区よりもさらに人口が少ない。山形県金山町の山村にある中田地区は町全体で5,829人（平成27年12月現在）であり，そのなかでも中田地区は過疎高齢化の進んでいる地域である。2015年3月に中田小学校が廃校したことからも分かるように，児童が参加する地域ごとの祭りも縮小傾向にある状況である。

これらの4地域に共通しているのは，過疎高齢化が進む山村の地域であり，地域づくりを中心的に担うのが高齢者であるという状況である。また，なかなか新しい「村おこし」としての産業活性も難しい状況で，今後の地域政策に苦慮している。

3. 地域課題の内容の選出方法

地域白書に共通しているアンケート項目は，以下の3つである。①地域で不足していると思う点，②今後，地域をどのようにしたいと考えているかという将来のイメージ，③地域の将来像に必要とされる具体的計画案，である。地域住民が考えるテーマごとの優先順位を明らかにすることによって，地域全体としてどのような考えを持っているのかを改めて知ることで，その後の地域づくりを加速化させることがねらいである。以下に，それぞれの地域で行った3点に関係する項目について列挙する。

3.1 川北地域白書

①川北に不足しているところは何ですか。（選択は3つ以内）

1. 就労の場
2. 農林水産業の振興
3. 観光・商工の振興
4. 健康づくりの推進
5. 防災対策
6. 障がい者（児）福祉
7. 高齢者福祉
8. 地域活動の活性化
9. 生涯学習の推進
10. 交通基盤（バス・その他）
11. 教育の充実
12. 自然環境の保全
13. 文化財の保護や伝統行事の継承
14. その他

②あなたは，川北をどのようなまちにしたいですか。（選択は4つ以内）

1. 子育てや子どもの成長を支援するまち
2. 地域住民のための医療・福祉が充実したまち
3. みんなで支え合う地域コミュニティの活発なまち
7. 大勢の来訪者が訪れる食のまち
8. 豊かな自然が残る，ゆとりある環境のまち
9. ごみの減量やリサイクル活動に積極的なまち

4. 生涯学習，文化活動やスポーツのさかんなまち
5. 歴史や伝統行事などを守り育てるまち
6. 農林水産業とそれを生かした地域産業（食品加工業など）が活発なまち
10. 自然エネルギーを推進するまち
11. 犯罪や事故のない安全・安心なまち
12. 災害対策や設備が充実したまち
13. その他

3.2　扇尾地域白書

①扇尾に不足しているところは何ですか？（選択は3つ以内）

1. 働く場
2. 農林水産業の振興
3. 観光・商工の振興
4. 健康づくりの推進
5. 防災対策
6. 障がい者（児）福祉
7. 高齢者福祉
8. 地域活動の活性化
9. 生涯学習の推進
10. 交通基盤（バス・その他）
11. 教育の充実
12. 自然環境の保全
13. 文化財の保護や伝統行事の継承
14. その他

②あなたは，扇尾をどのような地区にしたいですか？（選択は4つ以内）

1. 子育てや子どもの成長を支援する地区
2. 地区住民のための医療・福祉が充実した地区
3. みんなで支え合う地区交流の活発な地区
4. 生涯学習，文化活動やスポーツのさかんな地区
5. 歴史や伝統行事などを守り育てる地区
6. 農林水産業とそれを生かした地区産業（食品加工業など）が活発な地区
7. 大勢の来訪者が訪れる食の地区
8. 豊かな自然が残る，ゆとりある環境の地区
9. ごみの減量やリサイクル活動に積極的な地区
10. 自然エネルギーを推進する地区
11. 犯罪や事故のない安心・安全な地区
12. 災害対策や設備が充実した地区
13. その他

③今後，扇尾に必要なことはなんですか？（選択は4つ以内）

1. バスなどの公共交通機関の充実と道路の整備
2. 老後の住みやすい環境づくりや，医療，福祉の充実
3. 地区の伝統のお祭りや歴史，特産物を後世に伝えていくこと
4. 防災訓練，河川の整備や震災時のための防災対策
5. 食事や買い物を交通手段のない方でも気軽に行けるよう，近くに商業施設を充実させること
6. 観光事業を充実させての扇尾の宣伝活動
7. 他地区からの居住者を増加させるような取り組み（空き家対策・就労支援）
8. 町内会・婦人会などの地区のつながりの強化や組織の活性化
9. 義務教育の子どもを持つ家庭に対する支援

10. 子育てしやすい環境を整えるための支援
11. 行政と地区のみなさんとの連携の場をこれまで以上に増やすこと
12. ゲートボール，運動会等の地区でのスポーツ・レクリエーションの充実
13. 就農支援などの農家の方に対する支援
14. 騒音，悪臭などの公害に対する対策
15. 公民館等で行われる講座の充実
16. その他

④扇尾には，幽遠山の深固院やしんこだんごなど歴史ある場所や特産物がありますが，これらをいかして地区活性をしていくにはどのようなことが必要でしょうか？（複数回答可）

1. 観光パンフレットを作成し，公民館や学校に配布し歴史ある建物や場所を知ってもらう
2. 小中学校の社会科見学，もしくは歴史の授業を活用し，地区に子どもを呼びこみ，農業体験等をしてもらう
3. 森林浴，歴史ある場所のスタンプラリー，地区検定等のツアーを企画する
4. 地区に残っている子どもたちに，おとなが歴史ある建物や場所の起源，発祥について伝え，後世に残していく
5. 住民同士による地区の歴史，文化の講習や再確認
6. 観光課と連携を取り地区のHPを作成し，同時にガイドマップなどに載せて地区のPR活動を行う
7. 夏休み等を利用して，親子で歴史ある場所に出向いたり，特産品を味わったりして，扇尾を知ってもらう
8. 地区を男女の社交の場（街コン※[1]）等に利用してもらう
9. 地区の歴史をまとめて公民館に地区歴史記念館スペースを作り集客する
10. 観光客に地区の食品を使った料理や地区の特産物を提供する
11. べっぴんさんみそ等地区の特産品を販売する際，同時に地区の宣伝を行う
12. 大学・企業と連携して地区の歴史研究をする
13. 地区の清掃活動を行う
14. 遠くから来た人（観光客）のために宿泊施設等を整備する
15. ポスター・パンフレット等を作成し，学校や県内の観光案内所に設置する
16. その他

3.3　坊野地域白書

①坊野に不足しているところは何ですか。（選択は3つ以内）

1. 働く場
2. 農林水産業の振興
3. 観光・商工の振興
4. 健康づくりの推進
5. 防災対策
6. 障がい者（児）福祉
7. 高齢者福祉
8. 地域活動の活性化
9. 生涯学習の推進
10. 交通基盤（バス・その他）
11. 教育の充実
12. 自然環境の保全
13. 文化財の保護や伝統行事の継承
14. その他

②あなたは，坊野をどのようなまちにしたいですか。（選択は4つ以内）

1. 子育てや子どもの成長を支援するまち
2. 地域住民のための医療・福祉が充実したまち
3. みんなで支え合う地域コミュニティの活発なまち
4. 生涯学習，文化活動やスポーツのさかんなまち
5. 歴史や伝統行事などを守り育てるまち
6. 農林水産業とそれを生かした地域産業（食品加工業など）が活発なまち
7. 大勢の来訪者が訪れる食のまち
8. 豊かな自然が残る，ゆとりある環境のまち
9. ごみの減量やリサイクル活動に積極的なまち
10. 自然エネルギーを推進するまち
11. 犯罪や事故のない安全・安心なまち
12. 災害対策や設備が充実したまち
13. その他

③今後，坊野地区で取り組んでほしいことはなんですか。（○は4つ以内）

1. バスなどの公共交通機関の充実と道路の整備
2. 老後の住みやすい環境づくりや，医療，福祉の充実
3. 地域の伝統のお祭り，地区の歴史や特産物を後世に伝えていくこと
4. 防災訓練，河川の整備や震災時のための防災対策
5. 食事や買い物を交通手段のない方でも気軽に行けるように近くに商業施設を充実させること
6. 観光の事業を充実させての地区の宣伝活動
7. 地区内だけでなく他地域からの居住者を増加させるような就労支援
8. 町内会・婦人会などの地域のつながりの強化や組織の活性化
9. 義務教育の子どもを持つ家庭に対する支援
10. 子育てしやすい環境を整えるための支援
11. 行政と地区のみなさんとの連携の場をこれまで以上に増やすこと
12. ゲートボール，地区運動会等の地区でのスポーツ・レクリエーション活動の充実
13. 就農支援などの農家の方に対する支援
14. 騒音，悪臭などの公害に対する対策
15. 公民館等で行われる講座の充実
16. その他

④坊野には，黒川洞穴や西郷隆盛御座石，手洗鉢など，歴史ある場所や建物がありますが，これらをいかして地域活性をしていくにはどのようなことが必要でしょうか。（複数回答可）

1. 観光パンフレットを作成し，公民館や学校に配布し歴史ある建物や場所を知ってもらう
2. 小中学校の社会科見学，もしくは歴史の授業を活用し，地区に子どもを呼びこみ，農業体験等をしてもらう
3. 森林浴，歴史ある場所のスタンプラリー，地区検定等のツアーを企画し，地区の食品を使った料理をふるまったり景品に地区の特産物を提供したりする
4. 地区に残っている子どもにおとなが歴史ある建物や場所の起源や発祥について伝えて，後世に残していく
5. 住民同士による地域の歴史，文化の講習や再確認
6. 観光課とも連携を取り，地区のHPを作成し，ガイドマップなどを載せて地区のPR活動を行う
7. 夏休み等を利用し親子で歴史ある場所に出向いたり特産品を味わったりし，地区について学び，扇尾について知ってもらう

8. 地区を街コン() 等に利用してもらう
9. 地区の歴史をまとめて公民館に地区歴史記念館スペースを作り集客する
10. 歴史ある場所をまわりながら，ネイチャーゲーム教室を開く
11. べっぴんさんみそ等の地区の特産品を販売時に地区のPRを同時にすすめる
12. 大学・企業と連携して歴史研究や地区の連携をおこなう
13. 地区の清掃活動を行う
14. 遠くから来た人(観光客)のために宿泊施設等の整備
15. ポスター・パンフレット等を作成し，学校や県内の観光案内所，道の駅に設置する
16. その他

3.4 中田地域白書

①中田地区に不足していることは何だと思いますか？（選択は3つまで）

1. 働く場
2. 農業，林業の推進
3. 観光，商工の振興
4. 防災対策
5. 高齢者福祉
6. 子育て支援
7. 地域活動の活性化
8. 交通基盤（バス，道路）
9. 伝統行事の継承
10. 若者
11. その他

②あなたは中田地区をどのような町にしたいですか？（選択は3つまで）

1. 長男，長女が戻ってくる町
2. 買い物がしやすい町
3. みんなで支え合う地域コミュニティの活発な町
4. 住民のための医療，福祉がしっかりした町
5. 災害対策や設備がしっかりした町
6. 生涯学習，文化活動が盛んな町
7. 歴史や伝統行事を守り育てる町
8. 大勢の来訪者が訪れる町
9. 豊かな自然が残るきれいな環境の町
10. 犯罪や事故のない安全，安心な町
11. 農林業を活かした地域産業が活発な町
12. その他

③中田地区にはどのような地域活性が必要だと思いますか？（選択は3つまで）

1. 地区の新たな特産品を開発する
2. 地区全体のお祭りを開催する
3. ご当地食の開発
4. 観光名所の開発
5. 街コンを行う
6. 子ども（親子）への自然体験
7. 地域ぐるみの6次産業化[2]
8. 新規住民の呼び込み
9. 若者の就職の場の確保
10. 新規の起業への支援
11. 他地区や都会への広報活動
12. 姉妹都市，同名地域との交流
13. その他

④中田地区全体で地域活性を積極的にしていくにはどのようなことが必要だと思いますか？（選択は3つまで）

1. 地区全体の連携が取れるようにする
2. 年齢に関係なく協力する
3. 地域活性を行うリーダーを確立させる
4. 話し合いの場にできるだけ多くの方が参加すること
5. 行政と連携する
6. 地域活性を行う中心的な団体を作る
7. 定期的な集まりを開く
8. 地域活性の専門家に来てもらう
9. その他

⑤中田地区のイメージをどのようにしていきたいですか？（選択は3つまで）

1. 人のあたたかさがあり，親しみが持てる町
2. 地元の特産品を活かした食の町
3. ゆったり過ごせる暮らしやすい町
4. 住民同士のつながりが深く，何にでもみんなが協力的な町
5. 昔ながらの町並みや暮らしが魅力的な町
6. 季節や景色を感じられる自然豊かな町
7. 農業や林業などの一次産業が盛んな町
8. 犯罪や事故，災害がない安心・安全な町
9. 子どもからお年寄りまで全員が仲の良く，一体感のある町
10. 伝統芸能や文化，歴史的な建造物など歴史を感じられる町
11. その他

⑥今後，中田地区に必要なことは何ですか？（選択は5つまで）

1. 買い物ができる場所（商業施設）
2. 旧中田小学校の利活用
3. 住民の意見を言える場所
4. 中田地区全ての地区での交流
5. 地域文化の担い手の確保と継承
6. 新規住民の確保
7. 新規住民への引っ越し費用の補助や税金の免除，集合住宅の建設
8. 地元の若者の流出の歯止め
9. 地元を離れた若者のUターン勧誘
10. 子どもの教育場所の確保と整備
11. 子育ての場の確保と整備
12. 観光資源の発掘，創出，再検討
13. 企業の誘致
14. 耕作放棄地の有効活用
15. 空き家の有効活用
16. 情報インフラの整備（情報格差の減少）
17. 道路，交通網の整備
18. 若者の力
19. 福祉サービス
20. その他

4. 地域ごとの地域課題の比較

今回は4箇所（鹿児島県いちき串木野市川北地区，鹿児島県日置市扇尾地区，鹿児島県日置市坊野地区，山形県金山町中田地区）の過疎地域における高齢者の地域づくりに関する課題内容について比較を行う。比較項目は，今回の過疎地域の高齢者の考える先述した3項目の，①地域で

不足していると思う点，②今後，地域をどのようにしたいと考えているかという将来のイメージ，③地域の将来像に必要とされる具体的計画案，である。この4地域の比較から過疎高齢化地域の地域づくりに関する高齢者の関心のある学習内容について明らかにする。

⑴地域で不足している点（アンケートの上位）

川北地区

①犯罪や事故のない安全・安心なまち

②地域住民のための医療・福祉が充実

③子育てや子どもの成長を支援

④みんなで支え合う地域コミュニティの活発

扇尾地区

①働く場

②交通基盤（バス・その他）

③高齢者福祉

坊野地区

①働く場

②交通基盤（バス・その他）

中田地区

①若者の就職の場の確保

②地区の新たな特産品を開発する

③地区全体のお祭りを開催する

⑵今後，地域をどのようにしたいと考えているかという将来のイメージ（アンケートの上位）

川北地区

①柑橘類などの農産物や特産品

②七夕祭りなどの伝統行事や地域内での活動

③史跡や自然に恵まれた名所

④便利な生活環境

⑤川北地区住民の人柄や土地柄

扇尾地区

①子育てや子どもの成長を支援する地域

②地域住民のための医療・福祉が充実した地域

③みんなで支え合う地域コミュニティの活発な地域

④犯罪や事故のない安全・安心な地域

坊野地区

①地域住民のための医療・福祉が充実した地域

②みんなで支え合う地域コミュニティの活発な地域

③豊かな自然が残る，ゆとりある環境の地域

④犯罪や事故のない安全・安心な地域

中田地区

①人のあたたかさがあり，親しみが持てる町

②住民同士のつながりが深く

③季節や景色を感じられる自然豊かな町

④犯罪や事故，災害のない安心，安全な町

⑶地域の将来像に必要とされる具体的計画案

川北地区

①道路や河川，農地などの周辺環境の整備

②川北伝統文化「七夕」のアピール，維持保存

③カラオケ大会・運動会などの地域行事の活性化

④健康講座や文化教養講座などの生涯学習の充実

⑤川北の風景，土地を活かしたモニュメントや観光名所の計画

⑥市来駅や商店街を中心とした川北地区全体の活性化

⑦子どもの成長や子育ての支援

扇尾地区

①バスなどの公共交通機関の充実と道路の整備

②老後の住みやすい環境づくりや，医療，福祉の充実

③食事や買い物を交通手段のない方でも気軽に行けるように近くに商業施設を 充実させること

④地区内だけでなく他地域からの居住者を増加させるような就労支援

坊野地区

①老後の住みやすい環境づくりや，医療，福祉の充実

②バスなどの公共交通機関の充実と道路の整備

③地区内だけでなく他地域からの居住者を 増加させるような就労支援

④食事や買い物を交通手段のない方でも気軽に行けるように近くに商業施設を充実させること

中田地区

①旧中田小学校の利活用

②地元の若者の流出の歯止め

③買い物ができる場所（商業施設）

④中田地区全ての地区での交流

以上の3項目について分析をすると，⑴「地域で不足している点」については，多くの地区で安心・安全を掲げているのが分かる。過疎高齢化地域の共通点として一人暮らしの高齢者率が高く，鹿児島に限って言えば全国平均1位となっている（平成27年度現在）。したがって，安心安全に対しての不安が大きいため，その解消となる学習システムとして，「福祉マップ」の作成など地域福祉政策が全国的に行われて来ているように，学習内容とその実践の整備が必要である。⑵「今後，地域をどのようにしたいと考えているかという将来のイメージ」については，地域ごとの課題が特徴的に表出している。過疎高齢化地域の特徴として，児童の数が減少することによる小学校の閉校とその学校の利活用問題が挙げられる。また，地域の特産品をどのように販売するのかということも課題として挙げられる。しかし，共通点として挙げられるのは，「地域住民の人間関係の良さ」という点である。地域の人の良さを知ってほしいという希望は過疎高齢化地域の多くが望むことであり，この「人の温かみ」を地域外の人にどのようにアピールするのか，そして，地域内でどのように人間関係の良さを共感し合うのかに関わる学習システムの構築も必要である。⑶「地域の将来像に必要とされる具体的計画案」については，地域自治に関係する住民全体の意識の問題によって，選択内容が2方向変化する。1つは「地域活性」，もう1つは「地域福祉」である。この2つは，自治体が主体的に産業活性を行おうとしているのか，それとも行政の社会保障システムのなかで，地域福祉を拡充して行こうとしているのかである。自治体行政としては，減少する行政財源のなかで社会保障費の削減が叫ばれるなかで，過疎地域の福祉支援の拡大に対する対応策の転換が必要となっている。その地域課題のなかで重要であるのが，公民館長を中心とした地域支援者の活力である。過疎高齢化地域では，地域支援者による地域づくり活動が盛んであると，地域自治に関する計画が豊かになる。しかし，地域支援者が継続的に地域支援を行っていくことは難しいことが現状としてある。例えば，今回の調査で言えば，川北地区のアンケート項目が具体的であったのには，公民館長が積極的にリーダーシップを取って話し合

い活動を行っていたということが挙げられる。地域支援者のリーダー要請に関する学習システムの構築が急務であると言える。

5. おわりに

以上から，過疎高齢地域の地域づくりに関する生涯学習に拡充について考えるとすると，それぞれの地域において，地域振興を加速させようとする地域と，地域福祉として社会保障を充実させようとしている地域の2種類の方向性に分かれており，その自治体の全体的価値観は，さらに自治公民館の職員や公民館長の価値観や活動内容によって大きく変容があることが明らかとなった。

高齢者の学習については，堀薫夫が「高齢者の学習ニーズに関する調査研究[3]」(『教育老年学の展開』) のなかで，生涯学習講座に関して都市部と地方都市の学習内容の違いについて検討がなされているが，日本全国において過疎高齢化地域の数は年々増大し深刻な問題になっているのは，『地方消滅[4]』にある増田レポートで述べられている通りである。しかし，それぞれの自治体は地域の実情とは別に流れで全体的な価値観によって，地域づくりの方向性が公民館長の動きとともに変容する。行政や大学等の研究機関などが地域づくりに参画する際には，地域の実情に合わせるために，今一度，地域の価値観・理念を調査した上で行うことが必要である。

さらには，他の過疎地域との比較や連携を行いながら，総体的に地域課題を解決に導くためことによって，高齢者の主体的な学びのうねりへと展開すると考える。

注

1　街コン（まちこん）とは，地区振興を目的とした大規模な親睦会のことである。

2　6次産業化（ろくじさんぎょうか）とは，農畜産物，水産物の生産だけでなく，食品加工（第二次産業），流通，販売（第三次産業）にも農業者が主体的かつ総合的に関わることによって，加工賃や流通マージンなどの今まで第二次・第三次産業の事業者が得ていた付加価値を，農業者自身が得ることによって農業を活性化させようというものである。

3　堀薫夫「高齢者の学習ニーズに関する調査研究」『教育老年学の展開』学文社，2006年，pp.122-143。

4　増田寛也『地方消滅』中公新書，2014年。

本研究はJSPS科研費26780448の助成を受けたものです。